令和5年度　学校自己評価表

（ 最終 ）

学校名　三原市立田野浦小学校

校番（　6　）

a 学校教育目標	かしこく なかよく げんきよく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション（自校の使命）】　自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン（自校の将来像）】　児童が満足する学校、保護者が安心する学校、地域が誇りに思う学校、そして教職員が生き甲斐や行き甲斐を感じる学校。

評価計画					自己評価						改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価 イ	ロ	ハ	コメント
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する学力を育てる。	基礎・基本の学力向上	○主体的な学びにつながる授業の実施 ・児童の課題意識を生み出す発問構成の工夫 ・百マス計算での基礎学力の定着 ・ICTの活用	【各種学力調査】 ①単元末テスト（算数）の正答率　85% ②全国学力・学習状況調査の正答率、全国平均以上　100% ③NRT（学力テスト）の正答率、全国平均以上　100% 【児童アンケート】 ①「算数の授業が楽しい」 85% ②「算数の授業がよく分かる」 85%	85% 【100%】	84% 【96%】	83%	98% 【96%】	B	【各種学力調査】 ①知識技能88%　　思考・判断・表現78% ②、③については前期で報告済み。 【児童アンケート】 ①79%　②85% ●単元末テストの思考力・判断力・表現力の正答率が微増したが、学年ごとの差が依然として大きい。 ●各学年で特につまずきやすい単元の学習が続いていることから、「授業が楽しい」に対する肯定的評価が下がったと考えられる。	○学年末、来年度に向けて以下の取組を継続して行う。 ・ユニバーサルデザインの授業づくり ・ICT機器の効果的な活用 ・ドリルタイムや家庭学習と授業の関連付け ・「百マス計算」の継続 ・「放課後学習」の活用 ○計算技能の習熟のみでなく、仕組の理解に重点を置いた授業など、全国学力・学習状況調査の結果分析を反映させた授業づくりを引き続き行う。	2			・適正に評価されている。 ・子ども達は、すごく落ち着いている。年々よくなっている。 ・授業をしている教師が楽しさを感じないといけない。教師は言葉や表情で、学ぶ楽しさを伝えることが大切である。 ・大変よい表情で授業をしている先生がいる。他の教師が見てまねるとよい。
			○学習規律の徹底（4月中に達成） ・チャイムの順守 ・学習環境の整備（机の上、筆箱） ・返事の定着（名前を呼ばれたら「はい」）	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「授業の始まりと終わりのチャイムを守っていますか。」 ②「机の上や筆箱など、身の回りを整えて学習していますか。」 ③「名前を呼ばれたら返事をしていますか。」	95%	91%	92%	97%	B	【児童アンケート】 ①92% ②92% ③91% ○学習環境の整備については肯定的評価が3%上がり、年間を通して継続的に指導を行った成果が表れつつある。 ●3項目とも達成とはならなかった。	○年度始めに、目指す姿について教職員と児童で共有を図る。また、学習規律の重点取組項目と期間を設定し、全校で統一した指導を行うことで、どの学級でも同じ学習規律のもと授業を行うことができるようにする。				
豊かな心	地域を愛する心を持つとともに、夢や目標をかなえるための生活習慣身に付けさせる。	完全不登校の根絶	○不登校の未然防止 ・年に2回実施するQ-Uを基に、構成的グループエンカウンターの計画的な実施 ・全職員による児童実態の連携実施 ・関係機関との協働的な連携実施	①不登校児童、昨年度以下 ②「学級生活満足群」に属する児童の割合の上昇。「学級生活不満足群」や「要支援群」に属する児童の割合の減少。 （1回目と2回目を比較して）	85%	68%	123%	145%	A	①昨年度不登校児童9名（1月末） 今年度不登校児童13名（1月末）→69% ②学級生活満足群　59%（昨年度）→65%（今年度） 学級生活不満足群　13%（昨年度）→ 8%（今年度） 要支援群　3%（昨年度）→ 2%（今年度） ○学級生活に満足している児童の割合が上昇した。また、不満をもっている児童の割合も減少した。 ●不登校児童13名中2名は、SRへ登校することも難しい実態がある。 ●学級生活に不満をもっている児童が、43人いる。	○不登校児童の減少に向けて、SRや心の相談室等を活用するとともに、電話連絡や定期的な家庭訪問を行い、学校とのつながりを継続する。 ○学級生活不満足群や要支援群に属する児童を抽出し、アンケート結果から要因分析を行う。 ○要因分析をもとに、集団作りについて学年で取組を決定する。その際、現在計画を立てている構成的グループエンカウンターについて、目的や実施時期について見直し・修正を行い、よりよい集団作りを行う。	2			・適正に評価されている。 ・教室が整頓されており、古さを感じさせない。体育等の移動教室の整頓も徹底していた。 ・6年生児童の目がやわらかい感じを受け、とてもよいと思った。見ていて大変かわいく感じた。
			○小中スタンダード（SDNあいさつ、言葉遣い）の定着 ・児童会役員によるあいさつ運動の実施 ・相手に応じた丁寧な言葉遣いの指導	【児童・保護者・教員アンケートの肯定的評価】 ①「SDN（先に誰にでも何度でも）のあいさつができていますか。」 ②「『です』、『ます』をつけて、ていねいに話をしていますか。」	85%	83%	85%	100%	B	【児童、保護者、教職員アンケート】 ①83.2%（保護者65.6%、児童84.1%、教職員100%） ②86.0%（保護者67.6%、児童90.4%、教職員100%） ○10月と比べ、保護者や児童の評価が上がっていることから、学校の一貫した指導が伝わっていると考えられる。 ○教員主体の「あいさつ宣言」の取り組みを通して、田野浦小学校のあいさつに対して児童会役員が課題意識を持ち、具体的な理想の姿を追求し始めた。児童主体の取り組みとして動きつつある。 ●田野浦小学校としてどのようなあいさつが理想の姿か，児童会役員が中心となって学校全体で考え、児童が自己決定できる場面が必要だと考える。	○「あいさつ・言葉遣いチェックカード」を通して、家庭と連携を図りながら、指導を行う。 ○理想のあいさつについて、各学級で話し合い、児童会役員が中心となって、学校全体で目指すあいさつの姿を統一・共有する。その目指す姿を目標としたあいさつ週間を設定し、実践・評価する機会を作る。				
健やかな体	体力を高め、感染症予防に対する高い意識を育てる。	新体力テスト結果の向上	○運動能力の向上 ・運動量を確保する体育授業の工夫を共有化 ・4月と11月の長座体前屈計測で向上率確認 ・年間を通じて外遊びや縄跳びなどの啓発	【4月・11月の長座体前屈の記録】 ①県及び全国平均値以上　75%以上	75%	53%	59%	79%	C	【4月・11月の長座体前屈の記録】 ①53.1%（4月）→59.3%（11月） ●目標値を大きく下回った。 ●昨年度比＋8.3%で改善傾向であるが、依然として柔軟性に課題が見られる。学年による差も大きいことも今後の課題の一つである。 【ハンカチ点検】①持参率93%　【児童アンケート】①90.9% ○目標は達成であるが、昨年度比±0で数値は変化なしである。	○来年度は早期からストレッチの取組や体育の準備運動での効率的な運動の実施など、柔軟性や筋力アップに特化した運動を取り入れるようにして、年間を見通した記録の向上に取り組む。 ○今年度より、予備のハンカチをランドセルに入れる取組を行った。昨年度も持参率93%で変化は見られないが、ハンカチ忘れの対策のために今後も継続して取り組む。また、ハンカチを忘れる児童の家庭との連携を取りながら、今後も実態把握と啓発を行う。	2			・適正に評価されている。
			○病気や感染症予防に対する行動の向上 ・ハンカチ持参の強化週間を設定 ・ICTを活用した手洗い方法の指導 ・授業や各種便りを活用した啓発	【ハンカチ点検】 ①ハンカチ持参率　90%以上 【児童意識調査の肯定的評価】 ①手洗い実施、ハンカチ持参に 関する肯定的評価　90%以上	90%	93%	93%	102%	A						
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	働き方改革の推進	○時間外勤務月45時間以内を完全実施 ・月間勤務時間合計の確認、助言 ・行事、事務作業の計画、精選 ・教材の共有化	【超過勤務　月45時間以内】 ①在校時間一覧表による超過勤務時間 【教職員アンケートの肯定的評価】 ①「現在、生き甲斐や行き甲斐を感じることができている。」	90%	91%	89%	99%	B	【超過勤務　月45時間以内】 ①10～1月までの月45時間以内の割合 94.2% （重点月のうち12・1月は100%） 退校時刻を意識し、優先順位を付けながら業務を行うことができている。 【教職員アンケートの肯定的評価】 ①84.0% 業務が集中している職員が、前期より生き甲斐や行き甲斐を感じることができていない状況がある。	○働き方改革重点月への取組を行う。 （重点月5・6・7・8・12・1・2月） ○成績処理時間の確保等による時間による持ち帰り業務の軽減を図る。 ○校務分掌に偏りがないかを見直し、業務が集中しないようにする。 ○相互にコミュニケーションを図り、困り感を共有できる職場環境をつくる。	2			・適正に評価されている。 ・「生き甲斐や行き甲斐」を感じるのは、管理職の評価が大きい。評価が繰り返されると、やってよかったと感じる。子どもを褒めて伸ばすことと同様である。
			○地域に信頼される学校づくり ・年間計画及び、時期に応じた服務研修実施 ・1年に2回、保護者・児童アンケート実施	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「田野浦小学校に通ってよかったと思いますか。」 【保護者アンケートの肯定的評価】 ①「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行っている。」	95%	95%	95%	100%	A	【児童アンケート】①94%　【保護者アンケート】①96% ○服務研修は計画的に実行できている。 ○様々な学校行事を行うことができたことやその後の振り返り等を行ったこと、さらに構成的グループエンカウンターを定期的に仕組んできたことで達成感や自己肯定感を高めることができた。 ●6%の児童が、学校に対して、不安や不満な気持ちをもっている。 ●学級の様子に不安をもっているという保護者からの記述があった。	○学校に対する不安な気持ちをもっている児童の実態把握を行う。その後、その児童や学級集団への適切な取組を組織的に考え、実行する。 ○児童のより良い成長に向けて，保護者連携が重要であることを再確認し，必要に応じて連携を図っていく。	2			・適正に評価されている。 ・田野浦小は、教師と児童の信頼関係があるまま中学校に入学してくる素地を作ってくれている。

本年度の重点目標については◎印で示す

【ｊ：自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００

【Ｉ：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。